法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-21

# 斎藤 茂・金山行孝・高橋彦博・高尾利数教授 略歴と主な業績

(出版者 / Publisher)
法政大学社会学部学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
社会志林 / Hosei journal of sociology and social sciences
(巻 / Volume)
47
(号 / Number)
4
(発行年 / Year)
2001-03

## 斎　藤　　茂 教授

昭和6年3月12日生

〈学歴〉

昭和28年3月　　東京理科大学理学部化学科卒業

昭和38年3月　　立教大学大学院理学研究科化学専攻

修士課程修了〈理学修士〉

〈職歴〉

昭和28年5月　　法政大学第一教養部 助手

昭和39年4月　　同　　講師

昭和42年4月　　同　　助教授

昭和46年4月　　同　　教授

昭和57年4月　　法政大学学生部長〈評議員〉 昭和58年9月まで

昭和59年4月　　法政大学社会学部 教授　　現在にいたる

〈学会〉

昭和28年から現在まで　　日本化学会会員

昭和33年から現在まで　　触媒学会会員

〈授業科目〉

環境と化学　　自然科学特講　　基礎ゼミ

〈主な業績〉

**論　文**

コバルト触媒による一酸化炭素の常圧還元第1，2報

日本化学雑誌 vol. 82　昭和36年，日本化学会

フィッシャー・トロプシュ合成原料ガス中に添加したプロピレンおよび1-ブテンの影響　　日本化学雑誌 vol. 85　昭和39年，日本化学会

The Porarographic Behavior of Tris 1, 10-phenanthroline Cobalt complex

Bull. of the Chem. Soc. Japan vol. 39　昭和41年，日本化学会

フィッシャー・トロプシュ合成反応における触媒前処理の影響

法政大学教養部「紀要」16号，昭和47年3月

鉄触媒によるフィッシャー・トロプシュ合成反応

法政大学教養部「紀要」26号，昭和52年1月

コバルト触媒によるフィッシャー・トロプシュ合成反応

法政大学教養部「紀要」32号，昭和54年1月

鉄触媒によるフィッシャー・トロプシュ合成反応II

法政大学教養部「紀要」39号，昭和56年2月

一酸化炭素の水素化反応

法政大学教養部「紀要」44号，昭和58年1月

水ガラスをシリカ源とした鉄触媒によるフィッシャー・トロプシュ合成

法政大学教養部「紀要」64号，昭和63年2月

## 金　山　　行　孝 教授

〈略歴〉

1953年3月　　千葉大学文理学部生物学科卒業

1953年4月～1954年3月　　千葉大学文理学部生物学教室副手

1953年5月　　法政大学社会学部臨時実験室助手

1954年4月　　法政大学社会学部助手

1966年9月　　理学博士（東北大学）

1971年4月　　法政大学社会学部助教授

1973年4月　　法政大学社会学部教授

1986年4月～1987年3月　　法政大学社会学部長

2001年3月　　法政大学退職

〈所属学会〉

日本動物学会，日本動物行動学会，環境科学会

〈主な業績〉

**研究論文**

Studies of the conditioned reflex in the lower verteburates I. Gold－fish and sea bream (Pagrosomus major). 共：Sci. Rep. Tohoku Univ. Ser. 4, 21, (1955).

Studies of the conditioned reflex in the lower verteburates IV. Differentiation in gold－fish. 共：A. Rep. Jap. Sea Reg. Fish. Res. Lab., 3, (1956).

Studies of the conditioned teflex in the lower verteburates V. Respiratory defensive conditioned reflex in carp. 共：A. Rep. Jap. Sea Reg. Fish. Res. Lab., 3, (1957).

Studies of the conditioned reflex in the lower verteburates VIII. Conditioned inhibition in gold－fish and angel fish. 共：A. Rep. Sea Reg. Fish. Res. Lab., 4, (1958).

Conditioned reflex of color change in fish, angel fish. 共：Jap. J. Zool., 12, (1960).

Comparative studies on the development of EEG. 共：Jap. J. Physiol., 10,

(1960).

Food motor conditioned reflex and electrical stimulation of the brain stem reticular formations. 共 : Jap. J. Physiol., 12, (1962).

Role of the reticular formation in the food motor conditioned reflex. 共 : Contributions at the 1964 Peking Symposium, GEN 025, (1964).

Studies of the conditioned reflex in the lower vertebrates IX. Defensive conditioned reflex of the fish larvae in group. 共 : A. Rep. Noto Mar. Lab., 4, (1964). (in Japanese)

Some ideas on the schemes of the mechanism on the motor conditioned reflexes based on the comparative physiological studies. 共 : Cent. Perif. Mecha. Nerv. Deyat., (1966).

A specific role of the brain stem reticular formations as revealed by the study of conditioned reflexes. 共 : Mie Med. J., 14, (1966).

Functional analysis of the brain reticular formation by means of motor conditioned reflexes. 共 : Kortiko－Viszerale Physiologie, Pathologie unt Terapie, Akademie－Verlag, Berlin, (1966).

Studies on the effects of chlorpromazine and imipramine. 共 : Third National Conf. of the Bulgarian Soc. for Physiol. Se., 22, (1967).

Studies of the conditioned reflex in lower vertebrates X. Defensive conditioned reflex of chum salmon fry in group. Marin Biol., 2, (1968).

Application of the defensive conditioned reflex in chum salmon fry for fishery. Vopros. Ihtiol., 8, (1968). (in Russian)

# 高　橋　　彦　博 教授

〈略歴〉

1931年3月24日　　東京・深川に生まれる。

1956年4月　法政大学社会学部二部，入学。1960年3月，同校卒業。

1960年4月　法政大学大学院社会科学研究科政治学専攻，修士課程入学。1962年3月，同課程終了。

1962年4月　法政大学大学院社会科学研究科政治学専攻，博士課程入学。1965年3月，同課程単位取得。

1965年4月　法政大学第二教養部，同第一教養部，同社会学部，芝浦工業大学，各非常勤講師。1968年3月まで。

1967年12月　大阪経済大学専任講師，のち助教授。1972年3月，退職。この間に桃山学院大学非常勤講師。

1972年4月　法政大学助教授，のち教授。所属，社会学部。

1975年9月　法政大学在外研究員，1976年8月まで。イギリス・シェフィールド大学日本研究センターに所属。

1976年9月　法政大学100年史編纂委員。それ以降，2001年3月まで大学史史料委員会委員。

1984年4月　法政大学社会学部長，1986年3月まで。この間，法政大学評議員。

1985年10月　ドイツ民主共和国フンボルト大学175周年記念式典に法政大学から出席。

1986年4月　法政大学国内研究員，1987年3月まで。

1987年7月　日本政治学会理事選挙で理事に選出されるも就任を辞退。

1988年4月　法政大学図書館長，1992年3月まで。この間，法政大学評議員。

1988年4月　私立大学図書館協会常任理事。1989年3月まで。

2001年3月　定年退職（予定)。

【1972年4月以降2001年3月に至る期間内に，非常勤講師として下記各校に出講】

日本社会事業大学，横浜国立大学教育学部，東京農工大教養部，高知短期大学，北海道教育大学教育学部釧路分校，早稲田大学現代政治経済研究所，早稲田大学法学部，一つ橋大学社会学部，など。

〈主な業績〉

## I 単　著

『民社党論―その理念と体質』

新日本出版社，1972年。

『日本の社会民主主義政党―構造的特質の分析』

法政大学出版局，1977年。

『現代政治と社会民主主義―三つの潮流とその実検―』

法政大学出版局，1985年。

『民衆の側の戦争責任』

青木書店，1989年。

『保守の英知と革新―社会民主主義の新展開―』

花伝社，1991年。

『左翼知識人の理論責任』

窓社，1993年。

『日本国憲法体制の形成』

青木書店，1997年。

『戦間期日本の社会研究センター―大原社研と協調会の分析―』

柏書房，2001年。

## II 共 編 著

編纂『大山郁夫著書論文目録』

大山会刊，1966年。

共著『無産政党の研究―戦前日本の社会民主主義―』

法政大学出版局，1969年。

編纂『大山郁夫年譜』

大山会刊，1971年。

共著『日本社会運動人名辞典』

青木書店，1979年。

共著『現代日本の議会と政党』

学習の友社，1980年。

共著『講座・現代資本主義国家』（全4巻，責任編集・第三巻）

大月書店，1980年。

共著『社会・労働運動大年表』（全4巻）
　労働旬報社，1986～1987年。
共著『大山郁夫著作集—大正デモクラシー期の政治・社会・文化—』
（全7巻，解題担当第6巻）
　岩波書店，1987～88年。

## III　学会報告

「大山郁夫の亡命について」
　日本政治学会　1970年度。
「政党政治におけるオポジションの機能」
　日本政治学会　1974年度。
「社会労働運動史再構成の視点」
　社会政策学会　1992年度関西大会。
「コーポラティズムとしての協調会」
　社会政策学会　1996年5月。

## IV　主な論文・評論

「新しい学生連動の出発—社会主義運動と自治活動—」
　『東京大学学生新聞』1956年11月15日。
「学生連動の歴史的課題」（1～4）
　『法政大学新聞』1959年11月5日～12月15日。
「戦前労農運動関係雑誌・機関紙・通信類目録』（無署名）
　法政大学大原社会問題研究所『資料室報』65号，1961年3月。
「日本労農党の構造的特質」
　『労働運動史研究』第32号，1962年7月。
「『ニュー・レフト』は新しいか
　—『マルクシズム・ツデー』誌上での討論をめぐって—」（1，2）
　『法政大学新聞』1962年10月8日，10月15日。
「在米日本人社会主義者の機関誌『平民』について』（無署名）
　法政大学大原社会問題研究所『資料室報』第84号，1962年10月。
「雑誌『現代の理論』復刊の問題性」
　『法政大学新聞』1964年1月25日。

「政治研究会における『大衆政党』の構想」

『社会労働研究』第17号，1964年12月。

「大衆選挙の実態—第30回総選挙の結果から—」

『中央大学新聞』1964年12月5日。

「大原光憲・横山桂次編著『産業社会と政治過程（無署名）京葉工業地帯—』」（書評）

『中央評論』1965年6月。

「無産政党の党構造」

『思想』第502号，1966年4月。

「高野岩三郎『憲法私案』の社会運動史的背景」

『社会労働研究』第27号，1966年9月。

「日本における『社会主義の分裂』と統一戦線党の確立」

『歴史学研究』第322号，1967年3月。

「革新都政とその意味—『革新』概念の再検討を—」

『法政大学新聞』1967年5月10日。

「美濃部都政を考える—革新勢力の政治的成熟へ—」

『法政大学新聞』1967年5月25日。

「大山郁夫の『亡命』について—戦前日本における多元的国家論の意義と限界—」

『大阪経大論集』第77号，1970年9月。

「R・ミヘルスの政党論について」

『大阪経大論集』第81号，1971年5月。

「戦後平和運動の原点—大山郁夫の場合—」

『大阪経大論集』第86号，1972年3月

「『生産力ナショナリズム』と『管理民主主義の行きづまり』高畠通敏論文にふれて—」

『東京大学新聞』1972年7月3日。

「『実践的労働組合主義』の形成—労働運動史研究の方法論との関連において—」

『社会労働研究』第19巻1．2号，1973年3月。

「松沢弘陽『日本社会主義の思想』」（書評）

『社会労働研究』第20巻第3．4号，1974年3月。

「松沢弘陽『日本社会主義の思想』」（書評）

『歴史学研究』No.410，1974年7月。

「社会主義政党論の今日的課題—イギリスで考えたこと—」

『科学と思想』第23号，1977年1月。

「社会党首班内閣の成立と挫折」

『岩波講座・日本歴史』第22巻，戦後Ⅰ，1977年4月。

「福田政権における革新対策としての『協調と違帯』」

『赤旗評論特集版』第8号，1977年5月16日。

「近代政党における派閥の問題」

『赤旗評論特集版』第31号，1977年10月24日。

「佐々木新体制下の民社党」

『前衛』No. 427，1978年7月。

「社会主義協会と統一戦線」

増島宏編『日本の統一戦線（下）』所収，大月書店，1978年6月。

「政治反動の基本的性格について

—軍事ファシズムと日本型ファシズムとの関連で—」

『労働法律旬報』No. 961，1978年10月上旬号。

「労働運動の分裂と再編」

藤原彰編『体系・日本現代史（6）』所収，日本評論社，1979年。

「保守独裁体制の確立」

佐々木隆爾編『体系・日本現代史（7）』所収，日本評論杜，1979年。

「日本における政治社会学の成立過程—シカゴ大学留学時代の大山郁夫—」

法政大学『大学助成による研究経過報告集』第1号，1979年度。

「第一回普選のポスターから」

『法政』1980年6月。

「『防衛問題』と戦後の革新勢力—日本社会党における安全保障政策の転換構造—」

『現代と思想』第40号，1980年7月。

「新聞を読んで」

『毎日新聞』1981年3月16日。

「八〇年代初頭における日本社会党の方向転換過程」

『歴史評論』No. 376，1981年8月。

「鈴木自民党内閣の柔構造—政府の立場と党の立場の使い分け—」

『前衛』No. 470，1981年10月。

「社会党委員長選挙への注文—政権参画自体を目標とするな」（論壇）

『朝日新聞』1981年12月6日。

「行政改革をめぐる政治過程」

関恒義編『行政改革と日本の進路』所収，大月書店，1982年1月。

「『中道』政治勢力の思想的特質—公明党の場合—」

増島宏編『現代日本の思想構造」所収，法律文化社，1982年2月。

「第二臨調路線の政治構造」

関恒義・室井力編『臨調行革の構図』所収，大月書店，1982年1月。

「自民—予備選突入まで」（モニター報告）

朝日新聞・東京本社編集局『えんぴつ』No. 225，1982年12月。

「総選挙と中曽根内閣」（モニター報告）

朝日新聞・東京本社編集局『えんぴつ』No. 226，1982年12月。

「高度経済成長と日本の労働運動—政推会議の6年間—」

『歴史学研究』別冊特集，1983年11月，歴史学研究会大会報告『東アジア世界の再編と民衆意識』所収。

「院外団の形成—竹内雄氏からの聞き書きを中心に—」

『社会労働研究』第30巻第3・4号，1984年3月。

「河上肇と大山郁夫」

塩田庄兵衛編『河上肇「自叙伝」の世界』所収，法律文化社，1984年11月。

「国民意識の変化と社会運動」

『講座・日本歴史（11)』東京大学出版会，1985年。

「日本政治学史の再構成—大山郁夫の政治社会学を中心に—」

法政大学『大学助成による研究経過報告集』第7号，1985年度。

「長谷川如是閑と大山郁夫」

『大原社会問題研究所雑誌』No. 337，1986年12月。

「社会労働運動史と憲政史の接点—1930年代のある経験—」

『大原社会問題研究所雑誌』No. 342，1987年5月。

「民同運動とナショナル・センターの再編」

『戦後体制の形成』大月書店，1988年5月

「渡辺治著『日本国憲法「改正」史』」（書評）

『法の科学』第16号，1988年9月。

「無産政党と帝国議会」

『社会労働研究』第32巻第2号，1989年2月。

「日本社会党と象徴天皇制」

『法律時報』Vol. 61, No. 6, 1989年5月。

「象徴天皇制の理解をめぐって」

『歴史学研究』第593号, 1989年5月。

「『民衆の側の戦争責任への問いかけ—教科書裁判が切り開いた—」

『朝日ジャーナル』1989年11月3日。

「藤原保信著『大山郁夫と大正デモクヲシー』」(書評)

『思想』No. 779号, 1989年5月。

「象徴天皇制の形成要因—日本社会党結党時の改憲方針—」

『歴史学研究』No. 605, 1990年4月。

「家永先生との『論争』—民衆の側の戦争責任について—」

『歴史評論』No. 484, 1990年8月。

「現代史の潮流としての社会民主主義」

週刊・朝日百科『世界の歴史』No. 122. 20世紀の世界2「社会主義とファシズム」1991年4月7日。

「日本の社会民主主義」

(東大社研シンポジウム「社会主戦とは何か」における発言記録)

『社会科学研究』第44巻第1号, 1992年。

「現状分析を欠落させた歴史研究者」

『歴史学研究』No. 662, 1992年2月。

「『民主的な労働運動』の形成と展開」

法政大学大原社会問題研究所編「《連合時代》の労働運動—再編の道程と新展開—』所収, 総合労働研究所刊, 1992年3月。

「社会労働運動史再構成の視点」

『社会労働研究』第39巻第2・3号, 1992年11月。

「現代日本におけるコーポラティズムの展開—『政治改革』争点化の背景—」

中央大学社会科学研究所編『現代国家の理論と現実』中央大学出版部刊, 1993年3月, 所収。

「左翼知識人の理論責任」

『私学公論』Vol. 26, No. 3, 1993年3月。

「政党イメージの再構成」

『窓』1993年, Spring.

「『社会科学総合辞典』の批判的検討」

『社会労働研究』第40巻第1・2号，1993年7月。

「片山＝芦田内閣論」

『シリーズ・日本近現代史—構造と変動(4)・戦後改革と現代社会の形成』岩波書店，1994年1月所収。

「増島宏教授の学問的業績について」

『社会労働研究』第40巻第3・4号，1994年2月。

「論争無用の『科学的社会主義』—萎縮する日本共産党分析のための一資料—」

『窓』第22号，1994年，Winter.

「日本国憲法と日本社会党」

『世界』1995年6月。

「社会民主党発足大会傍聴記」

『大原社会問題研究所雑誌』No. 451，1996年6月。

「新憲法の制定と法政大学」

『法政』1997年11月。

「二枚目のカード—労働組合期成会100周年シンポジウムの感想」

『大原社会問題研究所雑誌』No. 474，1998年5月。

「共産党はどこまで伸びるか」

『週刊金権日』第192号，1998年10月24日。

「大山会の人たち」

『早稲田 1950年 史料と証言』第3号，1998年12月。

「日本における社会民主主義の可能性」

『国際労働運動』No. 328，1999年2月。

「画期的な25条『生存権』」（社会民主党憲法調査会ヒアリング記録）

『社会新報』2000年4月5日。

「平成の社会民主党と明治の社会民主党」

『初期社会主義研究』第13号，2000年12月。

（単行書に収めた論文の多くは上記のリストから外した。）

# 高　尾　　利　数 教授

1930（昭和 5）4 月 23 日　山梨県都留市に生まれる

〈学歴〉

1949（昭和 24）3 月　昭和大学医学部中途退学

1951（昭和 26）3 月　茨城キリスト教短期大学卒葉

1953（昭和 28）1 月　アブリン・キリスト教大学（米国テキサス州）文学部卒業（B. A.）

1959（昭和 34）3 月　東京神学大学大学院，神学研究科，組織神学専攻　修士課程修了

1960（昭和 35）3 月　同大学院博士課程中途退学（就職のため）

〈職歴〉

1959（昭和 34）4 月　茨城キリスト教短期大学専任講師　1964（昭和 36）3 月まで

1959（昭和 34）4 月　名古屋学院大学経済学部専任講師　1968（昭和 48）3 月まで

1968（昭和 43）4 月　関東学院大学神学部 助教授（神学，倫理学，ドイツ語担当）

1973（昭和 48）4 月　関東学院大学文学部 非常勤講師　1989（平成 1）まで

1975（昭和 50）4 月　法政大学第二教養部 教授　1983（昭和 58）8 月まで

1977（昭和 52）4 月　立正大学文学部 非常勤講師（キリスト教思想担当）1998（平成 10）まで

1983（昭和 58）9 月　法政大学社会学部 教授（現代社会と宗教，英語，ドイツ語，演習担当）　現在に至る

〈主な業績〉

## I 著　　書

キリスト教信仰序説

　思想の科学社　'67（S. 42），4 月

キリスト教思想の流れ

新教出版社　'69（S.44），3月

キリスト教主義大学の死と再生

新教出版社　'69（S.44），7月

イエスの根源志向

新教出版社　'70（S.45），4月

神学の苦悶

伝統と現代社　'76（S.51），4月

人間的生き方への出発—幸福の倫理学

伝統と現代社　'77（S.52），4月

聖書を読み直すⅠ—旧約からイエスへ—

春秋社　'80（S.55），9月

聖書を読み直すⅡ—イエスからキリスト教へ—

春秋社　'80（S.55），9月

批判的幸福論

伝統と現代社　'81（S.56），4月

キリスト教史

法政大学通信教育部　'83（S.59），4月

宗教幻論

社会評論社　'88（S.63），11月

キリスト教史—問題史的接近

法政大学通信教育部　'92（H.4），2月

ソシュールで読む聖書物語

情報出版　'93（H.5），4月

テキストとして聖書

社会評論社　'93（H.5），4月

自伝的聖書論

柏書房　'94（H.6），2月

イエスとは誰か

NHKブックス　'96（H.8），8月

キリスト教を知る辞典

東京堂出版　'96（H.8），2月

〈宗教経験〉のトポロジー

社会評論社　'97（H. 9），2月

ブッダとは誰か

柏書房　'00（H. 12），3月

## II 訳　書

オットー・キルン『教義学要綱』（ドイツ語）

新教出版社　'59（S. 34），6月

C. E. ブラーテン『歴史と解釈学』（英語）

新教出版社　'66（S. 44），4月

J. ペリカン『ルターからキェルケゴールまで』（英語）

新教出版社　'67（S. 42），8月

カール・バルト『19世紀プロテスタント神学，上』（ドイツ語，共訳）

新教出版社　'67（S. 42），4月

ユルゲン・モルトマン『希望の神学』（ドイツ語）

新教出版社　'68（S. 43），4月

トーマス・W・オグレットリー編『マルクス主義者とキリスト者の対話』

日本基督教団出版局　'70（S. 45）9月

ゲルショム・ショーレム『ユダヤ主義の本質』（ドイツ語）

河出書房新社　'72（S. 47），8月

同『ユダヤ主義と西欧』（ドイツ語）

同　'73（S. 48），3月

同『ユダヤ教神秘主義』（ドイツ語）

同　'75（S. 50），4月

エルンスト・ブロッホ『キリスト教の中の無神論　上』（ドイツ語）

法政大学出版局　'75（S. 50），12月

同『キリスト教の中の無神論　下』

同　'79（S. 54），3月

ヨアヒム・カール『キリスト教の悲惨』（ドイツ語）

同　'79（S. 54），9月

ベトラ・ケリー『希望のために戦う』（ドイツ語，共訳）

春秋社　'80（S. 55），3月

ジクリト・フンケ『アラビア文化の遺産』（ドイツ語）

みすず書房　'82（S.57），1月

アルフレート・アドラー『人生の意味の心理学』

春秋社　'84（S.59），5月

R・フレイジャー/J・ファディマン『自己成長の基礎知識 1—深層心理学』（共訳）

春秋社　'89（H.1），1月

同『人間知の心理学』（ドイツ語）

春秋社　'87（S.63），11月

B・ベテルハイム『生き残ること』（英語）

法政大学出版局　'92（H.4），8月

M・ベイジェント/R・リー『死海文書の謎』

柏書房　'92（H.4），10月

B・スィーリング『イエスのミステリ—死海文書による謎解き』（英語）

'93（H.5），12月

カレン・アームストロング『神の歴史』（英語）

柏書房　'95，5月

同『キリスト教とセックス戦争』　'96（H.8），3月

同『楽園を遠く離れて』（英語）

柏書房　'97（H.9），3月

## III　論　　文（1975以降）

ヘブライ的言語・意識の歴史関連性

—『出エジプト記』3:1-17をめぐって—関東学院大学文学部綜合コース

「言語論」Ⅲ　'75，4.30

現代宗教の難関

「伝統と現代」　'75，1月号（伝統と現代社）

Can a Christian be a Marxist?

"Japan Christian Quarterley", vol. XLI, No. 1

「賢人ナータン」考

「情況」　'75，12月号（情況出版）

マルクス主義とキリスト教の将来

「福音と世界」　'75，12月号（新教出版社）

ユダヤ教

「世界の宗教と経典・総解説」 p. 144-160（自由国民社）

マルクス主義とキリスト教

—エレスト・ブロッホの「無神論者」概念をめぐって—

「実存主義」 '79, 11. 25（以文社）

ユダヤ教（旧約聖書の思想）

「伝統と現代」 '80, 5 月号（伝統と現代社）

キリスト教（新約聖書の思想）

「伝統と現代」 同

古代イスラニルとシナイ

「中東ジャーナル」 '82, 7 月号（行政通信社）

伝承解釈試論—イエスの戒め理解をめぐって—

「思想史の意義と方法」p. 145-168 '82, 10. 15（日本倫理学会）

思想の普遍性と歪曲—近代日本における儒教的徳目の場合—

「紀要」50 号 人文科学編（1984 年 1 月）（法政大学教養部）

キリスト教における戦争観の変遷—イエスから中世まで—

「社会労働研究」第 31 巻 第 1, 2 号 '85, 2.（法政大学社会学部）

まことのかかわりを求めて

「日本のキリスト教とバルト」 '86, 4. 30（新教出版社）

イエス・キリスト教・カトリシズム—遠藤周作の場合

「国文学解釈と鑑賞」第 51 巻 10 号 1986, 10.（至文堂）

解放の神学—キリスト教を批判的に継承する視点から—

「平和研究」第 11 号 1986, 11.（日本平和学会）

キリスト教の可能性—ゲルト・タイセンの場合—

「社会労働研究」第 35 巻 第 3, 4 号 '1989, 3.（法政大学社会学部）

世界の激動と宗教

「現代と展望」No. 30 1990 年秋号（稲妻社）

キリスト教の普遍性について—竹内芳郎の宗教論をめぐって—

「社会労働研究」第 37 巻 第 3 号 1990, 12.（法政大学社会学部）

司馬遼太郎批判（一）

「現代と展望」No. 31 1991 年春号（稲妻社）

現代キリスト教の輝きと曇り—「解放の神学」の一ケース

「社会労働研究」第 38 巻 第 2 号 1991, 4.（法政大学社会学部）

司馬遼太郎批判（二）

「現代と展望」No. 32　1991年冬号（稲妻社）

聖書解釈私論（一）—ソシュール・丸山圭三郎に学びつつ—

「社会労働研究」第39巻　第2/3号　1992（H. 4）（法政大学社会学部）

ソシュール言語学と旧約聖書（上）

「情況」1993，1・2月号（情況出版）

イエスの原像（一）—『マルコによる福音書』の批判的読解—

「社会労働研究」第39巻　第4号　1993, 2.（法政大学社会学部）

イエスの原像（二）—『マルコによる福音書』の批判的読解—

「社会労働研究」第40巻　第1，2号　1993, 7.（法政大学社会学部）

〈死のトポロジー〉への誘い—〈死のコスモソフィー〉によせて

「情況」1994年1月号（情況出版）

イエスの原像（三）—『マルコによる福音書』の批判的読解—

「社会労働研究」第40巻　第3・5号　1992, 4. 2（法政大学社会学部）

新興宗教と終末思想

「情況」'95, 6.（情況出版）

宗教だから起きたオウム事件

「朝日新聞」'95, 7. 20

オウム真理教問題の問いかけるもの—「宗教だから」という視点の大切さ

「状況と主体」誌　'95, 9月号（谷沢書房）

神の死の神学—宗教社会主義の新たな可能性

「情況」誌　'95, 4.（情況出版）

社会意識とユダヤ人像—宗教の視点から見たシャイロック

「社会労働研究」第43巻　第1・2号（法政大学社会学部紀要）

宗教の批判的継承の試み—現代の根本問題

「経済と社会」'98秋季号（時潮社）

聖書の国家論が示唆するもの

「情況」誌　97年12月号（情況出版）

キリスト教における性—古代イスラエルからアウグスティヌスまで

「性」（日本倫理学会論集，1996）

現代ナショナリズム考—「宗教」の視座から—

「社会志林」第46巻　第2号　1999, 12.

近代以降の日本における外国語教育—その特徴・欠陥・展望・課題—

「中外学者論外語教学和異文化理解」(上海外国語大学教育出版社　2000, 12.)

Roles of Religions in Japan Today

—The Case of Aum Supreme Truth Cult—

## IV　辞典の項目執筆

『コンサイス 20 世紀　思想事典』(三省堂, 1989 年)

ピューリタニズム, 解放の神学, プロテスタンティズム

『新マルクス学事典』(弘文堂, 2000 年)

キリスト教, 聖書, 神学, ルター, カルヴァン